

牛群検定通信 No 185

～ライナーリップとドロップレッツ現象～

寒くなってきました。寒くなるとミルクのライナーゴムも固く劣化しやすくなります。今の時期に点検してみてください。

1 ライナーゴムの交換

ライナーが古く劣化すれば、弾力性がなくなりリップしやすくなります。また、汚れも付着しやすく、特にひび割れなどがあればまさに細菌の温床となります。ミルク自身も乳房炎の原因となってしまいます。

ライナーゴムは製品にもよりますが、一般には搾乳回数1500回または3カ月で交換とされています。ここで大事なことは、いずれか早い方で交換することです。ただし、最近、流通しているシリコン製のものは、ずっと耐久性も高いので、詳細はお使いのミルク業者の方に尋ねてください。

2 乳房炎の原因となる現象

劣化したライナーゴムを使用することで発生する問題点を紹介します。

1) ライナースリップ

ティートカップがずり下がって空気を吸ってしまう現象をライナースリップといいます。ライナーとはティートカップ内側で陰圧により乳頭を締め付けたり、開いたりするゴムのことです。このゴムが滑って（スリップ）下がってしまい、「ズズー」という音を出し、ひどいときはミルカーが落下してしてしまいます。この「ズズー」という音は空気を吸い込む音です。この空気を吸い込むときに、一緒に乳頭についているバイ菌も吸ってしまいます。乳房はいくらきれいに清拭しても環境性ブドウ球菌に代表されるいろいろなバイ菌に汚染されています。ライナースリップしてしまうと、こういったバイ菌と一緒に吸い取ってしまい、乳房炎の原因となります。

2) ドロップレッツ現象

前述のライナースリップの影響は、更に問題を引き起こします。空気を吸い込むことでミルククローの陰圧を急激に弱めてしまうわけです。綱引きしていて、ロープが突然切れれば綱引きに参加していた人はみんなひっくり返ってしまい、とても危険です。これと同じことがミルカーで発生するのです。真空圧というロープで乳頭口から乳汁を引っ張り出していたところ、空気漏れで真空圧というロープが切れてしまえば乳汁はひっくり返って逆流してしまいます。これがドロップレッツ現象です。乳汁が逆流する速度は時速60キロにも達するといわれています。猛スピードで乳頭口にぶつかれば、乳頭口を痛めてしまい、そこから、乳房炎を罹患してしまうことは自明のことです。

(相原)